

外国人児童生徒教育の推進について

— 日本語教室における実践について —

足利市立御厨小学校 寺 岡 隆

1 はじめに

足利市立御厨小学校は、明治6年にその母体「就新社」が創立されて以来128年の伝統ある学校である。また、日本語教室は、外国人児童の急激な増加に伴い、平成4年度に設置され、今年で9年目を迎える。日本語教室設置後数年間は20名を越えた外国人児童数も、ここ数年10名を下回る状況が続いている。外国人児童の多くはブラジル籍で本年度は9名中7名がブラジル籍である。本年度残り2名はパラグアイ、そしてペルーの子である。近年では、少数ではあるが、ペルー、フィリピン、中国の児童が在籍していた。

本校の外国人児童の特色としては、次のことが挙げられる。

- ・ 親たちの目的は就労であること

いくら最近不況になってきたとはいえ、まだまだ賃金の高い日本で何とか職を求め生活している外国人がほとんどである。

- ・ 外国人の滞在期間が2年以上になる場合が多くなってきていること

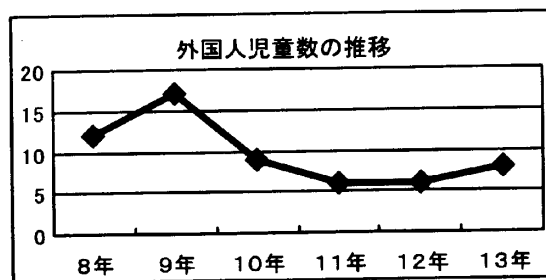
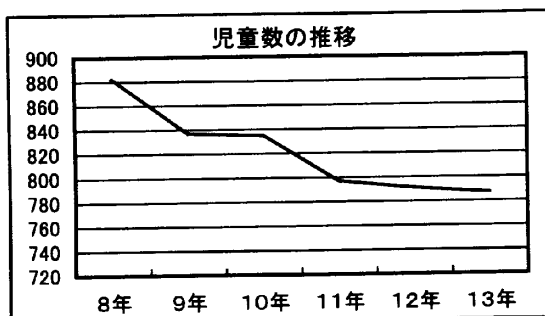
当然子どもたちもずっと本校に通学している。6年間を御厨小で過ごす外国人児童も増えてきた。

- ・ 外国人ということに基因するトラブルは減ってきていること

日本での滞在期間が延びるに連れ、外国人児童は、日常会話に全く不自由はなくなっている。また、外国人児童は、日本の生活習慣にも慣れ、学校生活におけるトラブルはほとんどなくなってくる。外国人児童の在籍するクラスの子どもたちも、彼らに対しては、一緒に学校生活を送っている友達という意識が強く、彼らを外国人として特別意識するようなことはない。

- ・ 親たちの職を求めるために起こる転校が増えてきたこと

ここ数年の傾向として、不況により、外国人労働者の労働条件が一段と厳しくなり、働きたくても働く場がない、働いてもすぐに解雇されてしまう、また、少しでも賃金の高い職場が見つかるとうちに転出していってしまうという事態が起こってきている。それに伴い、外国人児童も本校にいられず、やむを得ず転校せざるを得ないという事態が起きてきた。



一方、外国人児童の親たちの中には、子どもたちの将来を考えて、彼らに母国語を教えてくれる私設の学校へ通わせたり、母国へ帰国するというケースも生まれてきている。しかし、いったん本国へ帰国した人たちも本国で働くことができず、母国での賃金も安いいため、日本に戻ってきて職を探すというケースも生まれてきた。

さらに、日本での労働の実態を聞いた人が、日本に職を求めてやってくるというケースも増えてきている。そのため、全く日本語が分からないで、突然転入学してくる外国人児童も近年多く見られるようになってきた。

2 本校における外国人児童指導の実態

(1) 指導体制および指導時間

① 指導体制について

本校では、日本語教室指導教諭及び市単独事業による外国人巡回指導員の指導訪問により指導体制をとっている。なお詳細については、その年度の外国人児童の実態によって決めている。

② 指導時間について

指導時間は、次のようになっている。

ア 外国人児童の日本語教室への通級による日本語指導（のべ11時間）

イ 外国人児童の日本語教室への通級による教科補充指導（のべ4時間）

ウ 日本語指導教諭の外国人児童在籍クラスへの入り込みによる個別指導（のべ11時間）

本年度一番指導時間の多いのは、10月にペルーから来日した児童の7時間である。その他の6名は2～4時間指導している。

(2) 指導方法およびその方法

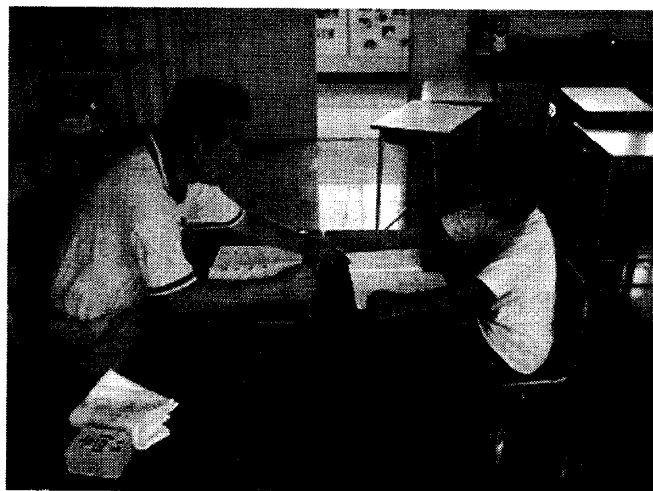
① 日本語教室における指導

日本語教室に通級してくる児童に対しては、大きく次のような2つの指導を行っている。

ア 日本語の指導と生活適応指導

編入学したばかりの外国人児童に対して、明るく自信を持って学校生活を送れるように日常会話を中心とした日本語の指導と生活適応指導を行っている。

イ 国語、算数を中心に教科補充指導
クラスでの授業でよく分からなか



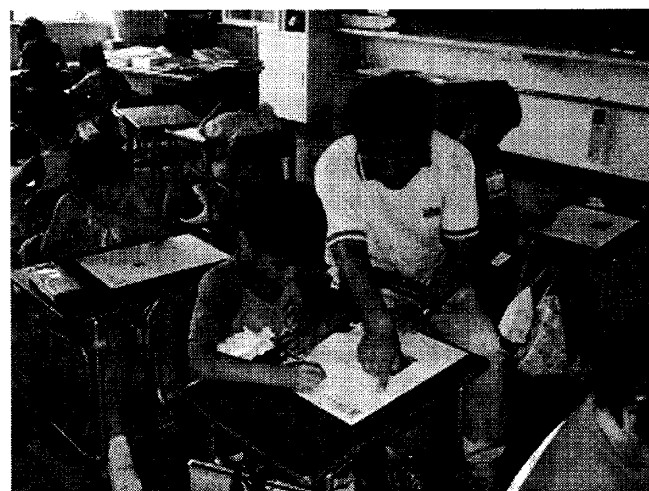
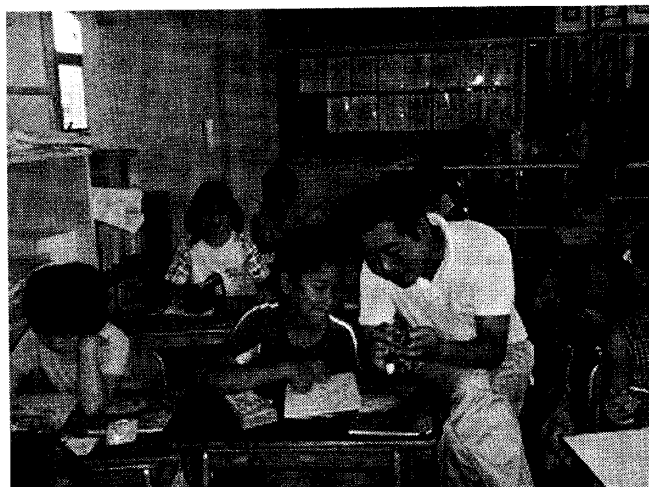
ったところを一緒に学習しなおしたり、分かりにくい学習用語の説明をしたりしている。もちろん学習の定着を図るため、漢字練習や計算練習なども行っている。遠足や修学旅行、避難訓練などの学校行事の事前指導も適宜行なっている。

また、他地区から転入してきた外国人児童に対しては、その子の日本語の習得状況に応じた指導ができるように、日本語の習得状況を見極め、本校の教育課程表のどの段階にあるのかを判断し、すぐにその子に応じた日本語指導を開始できるようにしている。

② 日本語教室担当が外国人児童の在籍する学級に入り込んでのTTによる指導

TTでは、国語や算数、社会などの教科で、彼らのそばについて教師の補説や学習用語の説明、作業内容の説明などを行い、彼らが少しでも学習内容の理解ができるようにしている。

また、日本語による表現がよく分からず、発表をためらっている児童に、表現の仕方を指導し、自信を持って発表できるようにしている。うまく発表できた後の児童の顔は喜びに満ちている。さらに、テストの際には、テスト独特の言い回しや初めての文章ということで内容がつかみにくかったり、言葉の面でも理解しにくかったりするものをテストの答えに関わらない程度に指導している。そうすることによって、その児童の正しい到達度が分かると思う。



3 日本語教室の子どもたち

(1) H・O君（1年生、ペルーより01年10月に転入学）

H君は、9月末に来日しすぐに御厨小に転入学してきた。もちろん日本語はまったく分からない。絵カードを使い、言葉を覚えることから始めた。H君は物覚えがとても良く、1週間であっという間に100枚くらいの絵カードを日本語で言えるようになった。

次に『ひろこさんのたのしいにほんご』を使いながら、あいさつのことば、自己紹介の文などを学習するとともに、ひらがなの学習を並行して行った。H君は、学習速度がとても速く、ひらがなの練習などすぐに終わってしまう。かといって乱暴に殴り書きをしているわけではな

く、筆順に気をつけながら丁寧に練習している。そして余った時間は折り紙に専念する。折り紙の本を見ながら器用に、鶴、きりん、ペンギン、くじらなどを折りあげる。一度折った形は覚えてしまい、次に折るときには何も見ないで折ってしまう。折り紙をしないときには、コンピュータで「マルチメディア『にほんごをまなぼう』」を使って勉強している。

スペイン語と日本語を交互に聞きながら勉強を進めている。

「教室では、おとなしい。」という担任の話だが、日本語教室では私がスペイン語を理解できないということが分かっているながら、一人でスペイン語をしゃべりながら勉強している。教室ではスペイン語を話せない分を日本語教室で発散しているものと理解し、見守っている。

(2) M・K君 (3年生、ブラジルより00年2月に転入学)

M君は日本で生まれた。生まれてしばらくしてブラジルへ帰っていたのだが、また日本に來日して御厨小へ転入学した。M君には姉(6年生)がおり、姉は小学3年生の途中までは日本の学校に通っていたため日本語についての理解能力と会話能力はあった。そのため、初期のころは姉と一緒に日本語教室に通級し、日本語を覚えていった。

ある程度日本語が分かるようになったころから、M君の学級に入ってTTを行うようになった。M君は、そばに私がついているので安心して学習を進めることができた。担任の先生の説明がよく分からないときには私に聞き、自分で納得しながら学習を進めていた。また、先生が質問したことに対して、自分で分かったことを「これでいい?」と私に確認し自信を持って手を挙げて発表することができた。その時のM君のうれしそうな、そして満足そうな笑顔を忘れることができない。

4 足利市における外国人児童生徒指導の協力体制

(1) 外国人児童生徒教育拠点校

足利市には、県から外国人児童生徒教育拠点校が3校指定されている。外国人児童生徒教育拠点校の目的は外国人児童生徒の就学の受け入れの中心となり、外国人児童生徒に対する教育の研究や実践を行い、外国人児童生徒の教育の充実を図ることである。拠点校では市教育委員会と連携を図りながら、可能な範囲で外国人児童生徒の就学を積極的に受け入れ、本人の学齢・学力等の実情に応じて適切な対応を図るようにしている。

(2) 外国人児童生徒教育専門指導員による巡回訪問指導

日本語指導や教育相談などを必要とする外国人児童生徒等について、よりよい学校生活への適応を図るため、外国人児童生徒教育専門指導員2名と教育相談カウンセラー1名を置いて、日常会話の指導、小学校低学年程度の読み書きの指導、適応指導、教育相談などを行っている。なお本年度は、本校に週1度、外国人児童生徒教育専門指導員が来校し、外国人児童の指導に当たってくれている。

(3) 外国人児童生徒教育連絡協議会

外国人児童生徒教育連絡協議会を定期的に開催し、足利市の外国人児童生徒の学校や家庭で

の生活の実態についてや今後の外国人児童生徒への指導に関することについて、情報交換を行ったり、共通理解を図ったりしている。

5 外国人児童生徒指導の課題

(1) 外国人児童の家庭で直面している問題

本校に在籍する外国人児童の保護者のほとんどは、就労を目的とした外国人労働者であり、父母ともに働いているいわゆる共働きの家庭である。しかも時間外労働や夜勤などで、外国人児童とすれ違いの生活をしている保護者も少なくない。そのため、両親が自ら日本語を学ぼうという意志があっても、学習する時間が取れず日本語が理解できず、結局、学校からの連絡が伝わらなかったり、学校への協力をお願いできなかったりということになってしまう。ひどい時には、子どもたちは日本語に習熟して家庭でも日本語で話し、親子の会話がなくなってしまうということも起こっている。

また、外国人児童が学校から家に帰っても親が働きに出ているため、いわゆる「鍵っ子」になってしまうという問題も起きている。

(2) 外国人児童生徒の学習意欲

もうひとつの問題として、外国人児童の中には、中学卒業後、就職して親の負担を減らそうと考えている子も少なくなく、また、それを期待している保護者もいる。そのため、「どうせ働くのだから勉強なんてしなくてもいい。」と、日本語の学習だけでなく学習全般に渡って、意欲のない子が増えてきた。

(3) 突然転校や帰国する外国人児童の問題

外国人児童の親たちは、少しでも条件のよい仕事があると、すぐに仕事を変える。彼らにしてみれば当然のことだとは思いますが、そのことによって被害をうけるのは、彼らの子どもたちである。せっかく慣れてきた学校、クラスを突然変えなければならない戸惑い、不安は計り知れないものがある。また担任にしても、転校の手続きやら成績証明やらを忙しく準備しなければならない。

(4) 外国人児童生徒の進学の問題

今まで述べてきたことはまったく逆のような気もするが、日本が不況だ、賃金が安いと、いくら言ってもまだまだ仕事が持たず、生活が成り立っているのなら、自分たちは我慢しても子どもたちには、十分な教育を受けさせてあげたいと願う外国人もいる。

彼らは、子どもの教育についても熱心で、学校にも分からないことがあると連絡をしてくる。また、学校にも協力的に対応してくれる。また、外国人児童の親たちの中には、子どもたちの将来、母国語を忘れてほしくないという願いから、母国語を教えてくれる私設の学校へ通わせたりもしている。

しかし、日本での滞在期間が長い外国人児童生徒は、受験の際に外国人であるという特例措置が受けられないなど、高校進学においても問題が生まれてきている。これらの課題について

は、小中の連携だけでなく、幼稚園や高校までも含めた連携を図り、市にも働きかけながら少しでも課題の解決が図れるように努力していきたいと思っている。

6 指導用教材・資料について

本校、日本語教室にある教材・資料について列挙する。

①『にほんごをまなぼう』1・2・3（文部省）

学校生活や行事などを場面として単元が設定され、日本語を学びながら学校生活に適應できていけるように配慮されている教材で、本校では、まったく日本語の分からない外国人児童の初期の教材として使っている。また、学校行事の事前指導の際にも使用している。「にほんごをまなぼう」は、1・2・3とあるが、本校では1を中心に使用している。



②マルチメディア『にほんごをまなぼう』

『にほんごをまなぼう』のコンピュータソフト。この教材のよい点は外国人児童の母国語に合わせた言葉を日本語と対応させて聴くことができるということである。また、一人でも学習することが可能で、自分の興味のあるところを自分で選んで学習することもできる。そのため、本校では、来日した



ばかりの指導の際に使用している。また、小さなころから日本に来ていて母国語を聞けても話せない、母国語が書けないという子どもたちにも有効な教材だと思う。

②『ひろこさんのたのしいにほんご』1・2

『文型れんしゅうちょう』（凡人社）「ひろこさんのたのしいにほんご」のよい点は、単元の構成が日本語の文型のやさしいものから順に配列されているところである。そのため、外国人児童の日本語の習得状況を把握するのに適していると思う。外国人児童にとっても日本語を無理なく順序良く学習できる教材であると思う。本校の教育課程表はこの教材に準じて配列している。

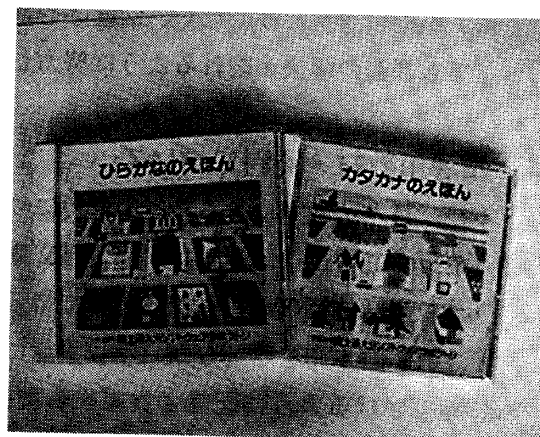


③ 『ひらがなのえほん』『カタカナのえほん』
 (富士通大分ソフトウェアラボラトリ)

『かんじのえほん』『かんじのえほん2』

(富士通大分ソフトウェアラボラトリ)

これは、日本語教室にコンピュータがなかったころに購入したもので、テレビに映して学習することができる。子どもたちの日本語の状況に合わせて、『かんじのえほん』とともに活用している。



上記以外のものについては、以下の表のとおりである。

1	『にほんごをまなぼう』教師用指導書	〃
2	『ひろこさんのたのしいにほんご』1・2	凡人社
3	『ひろこさんのたのしいにほんご』提示用カード	〃
4	『ことばカード』『漢字カード』『漢字カルタ』	公文出版
5	『ことばのえほんあいうえお／かるた』	絵本館
6	外国人児童生徒のための日本語指導1 — カリキュラム・ガイドラインと評価	ぎょうせい
7	外国人児童生徒のための日本語指導2 — 算数(数学)・理科の教科書 — 語彙と漢字	〃
8	外国人児童生徒のための日本語指導3 — 中国語版 文法説明	〃
9	外国人児童生徒のための日本語指導4 — ポルトガル語版 文法説明	〃
10	日本語学級1 初期必修の語彙と文字	凡人社
11	日本語学級2 基本文型の徹底整理	〃
12	日本語かな入門 ポルトガル語版	〃
13	漢字がたのしくなる本 基本漢字あそび	太郎次郎社
14	漢字がたのしくなる本 101字の基本漢字	〃
15	漢字がたのしくなる本 128字のあわせ漢字	〃
16	かな練習帳スペイン語版	スリーエーネットワーク
17	一口会話集 ポルトガル語版	自作
18	漢字カード	〃
19	学校たんけん (Power Pointにて作成)	〃

評

国際化の進展と産業構造の変化に伴って、足利市内の多くの企業や工場でもたくさんの外国人の人々が働くようになりました。家族で日本に来られた場合には、その子供たちの教育が重要な問題となっています。特に、日本語が全くできない子供たちへの学習指導、また日本の生活習慣になじめない子供たちをどう学校生活に適應させ自己実現を図っていくかが大きな課題であります。とりわけ、多くの外国人児童生徒が就学している学校においては、教育課程の編成や教職員の指導体制を工夫改善する必要があります。一方、総合的な学習の時間の試行段階においても、国際理解に関する課題を取り上げている学校もみられます。

このような中で、本研究は、外国人児童の実態に合わせた具体的な指導実践について紹介されています。主な内容としては、次のようなものがあり大変参考になります。

- 日本語教室における日本語指導や生活適應指導、教科補充指導と外国人児童が在籍する教室に入り込んでのTT指導の実際
- ペルーとブラジルから来た外国人児童の日本語教室における学習の様子
- 外国人児童生徒教育拠点校や専門指導員による巡回訪問指導等の足利市における外国人児童生徒指導に関する協力体制
- 実際に活用されている指導用教材や資料についての紹介
- 家庭環境や進路等に関する課題

今後においても、日本語指導や教育相談をはじめとした外国人児童生徒へのきめ細かな指導とともに、教育の国際化に向けた全校体制での取組みが大切であります。日本語の全くできない外国人児童生徒でも、安心して、そして楽しく充実した学校生活を送れ、意欲的に学習活動に取り組めるよう実践研究を深めていただくことを期待します。